

樫 地 区

～ つながり つむぐ つばきの里で ～

【2030年の将来像】

田園、散居集落、里山の景観、今も残る伝統・文化を絶やすことなく次世代へとつなぎ、地区民一人ひとりが安心して毎日を生き生きと過ごせる樫地区を作っていく。



【地区の概要データ】

(令和2年4月1日時点)

人口 男552・女572 計1,124 世帯数378 集落数10 高齢化率32%

【現状と課題】

- ・ 少子高齢化が加速する中で、地域間の連携や助け合いの仕組みづくりが急務となっている
- ・ 地域づくりの情報提供や組織団体間の交流が不十分である
- ・ 地区内の空き家の実態調査をする必要がある。移住・定住のための地区としてのキャパシティの調査を行い、積極的に空き家バンクなどを活用できる環境づくりを行う
- ・ 地区内の单身・高齢者世帯の調査を行い、買い物・除排雪・安否確認等の支援策を講じる必要がある
- ・ 若者や一部の人に任せきりとなっている地区の雰囲気を開くため、地区民全員が自分事としてまちづくりに関わる意識づくりを行う必要がある

【地区の資源・宝物】

- ・ 多くの公共施設(役場・あ～す・小中学校など)、散居集落及び里山と白川流域の景観、歴史的寺社仏閣と建造物、旧飯豊中学校グラウンドの桜並木、高寺山(西山)、飯豊公園、樫味噌、念仏踊り、獅子舞、エコタウン樫、下樫地区の蔵のある町並み、松山家行屋、ホープ館、みんなこ家、若者向けシェアハウス、樫焼窯跡

【地区の将来像を実現するための重点事業】

事業概要	第4次総合計画との関係	地区の役割	行政の役割	場所
区民会を中心とし、地区民どうしが支え合える地域づくりを行う 〔(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト〕	新規	団体の設立	補助金など運営全般のバックアップ	樫地区内
区民会活動を支えるため、白樫地区まちづくりセンターの機能拡充	新規	全般	補助金など運営全般のバックアップ	樫地区内

【アクションプラン】

アクションプランのテーマ・内容	第4次総合計画との関係	実施時期	実施主体
1. 支え合える地域づくり	継続	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白樺地区まちづくりセンター
<p>交流を生み、人と人が支え合える、笑顔あふれる地区づくりを推進します。</p> <p>(1)支え合える組織づくり 【いつまでに】 令和5年度まで 【なにをするか】</p> <p>①令和5年度までに「(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト」をつくり、町社会福祉協議会地域支え合い推進員の協力を得ながら組織化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な支えや見守りなどの課題を見い出すためのワークショップやアンケート調査を実施 その結果を踏まえて組織・事業を検討 <p>②高齢者から子どもまでを見守り、令和6年度から「(仮称)支え合える地域づくりプロジェクト」事業の着手</p> <ul style="list-style-type: none"> 区民会を主体とした除雪ボランティア、買物支援、もってんか運動(ゴミ出し支援)、安否確認、何でもしますボランティア(有償)、サロン等の交流事業の実施 など 			
2. 伝統文化をつなぐために	継続	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白樺地区まちづくりセンター
<p>椿の先人たちが築き守り続けてきた伝統や文化を、絶やすことなく次世代へとつなぎます。</p> <p>(1)椿の歴史文化、伝統行事をつなぎ、広めていくための事業の実施 【いつまでに】 令和7年度まで 【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)椿の伝統・文化をつなぐプロジェクト」を組織し、課題解決方法を組み立てる</p> <p>②椿が形成された歴史・地形・風土的根拠、食文化等を発見・学び、椿で生活することの意義と価値を認識する</p> <p>③飯豊史話会と協力し歴史文化勉強会を開催し、地区民全員が地区の成り立ちを知る</p> <p>④伝統・文化を継承し学びながら、保育園、小学校、中学校と連携し、後継者の育成を図る</p> <p>⑤地区外に活動フィールドを広げ、地区の伝統・文化を発信し、「(仮称)椿の伝統・文化をつなぐプロジェクト」参加者を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区間での散居集落の景観を維持するための活動や活用法を考える活動 高寺山(西山)などを活用したクアオルトツアーなどの企画運営 椿の伝統的食文化を生かしたグルメツアーの企画 など 			

<p>3. 老若男女がにぎわい出会える集いづくり</p>	<p>新規</p>	<p>令和3～12年度</p>	<p>①主体：樅区民会、自治会長会 ②支援：白樅地区まちづくりセンター</p>
<p>にぎわいに溢れ、活力ある地区づくりを推進します。 (1) 樅全体のにぎわいの創出と地域の活性化につながる組織づくり 【いつまでに】 令和4年度まで 【なにをするか】 ①区民会、自治会長、青年会、女性グループ、NPO、商店会、白樅地区まちづくりセンターなどを構成主体とする「(仮称)樅地区地域活性化プロジェクト」を立ち上げる。地区全体の多様な地域課題の抽出とそれらの解決に取り組むための検討組織とし、②～⑤に掲げる各検討部会を統括する。 ②羽前樅駅前にぎわい通り再興活動 ・にぎわい通りの再興のために、区民会や地元企業、関係者を構成主体とする「(仮称)樅駅前にぎわいづくり検討部会」を設置。樅の玄関口として、旧山口医院跡地や農協倉庫を有効活用できる計画づくりや整備を促進するための検討組織づくりを行う ③多くの教育文化施設を有する地区として、生活を豊かにする総合向学交流施設の要望の取り組み ・区民会や関係団体を構成主体とする「(仮称)総合向学施設整備検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区民だけでなく町民にとって必要な施設を、具体的に提案し整備を要望する取り組みを行う ・部会活動として「公共施設整備に関するワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う ④屋内スポーツ施設整備のための機運づくりの取り組み ・区民会や関係団体を構成主体とする「(仮称)スポーツ施設整備検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区民だけでなく町民にとって必要な施設を、具体的に提案し整備を要望する取り組みを行う ・部会活動として「スポーツ施設整備に関するワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」などを行う ⑤古民家や空き家を活用した「若者の集いの場」をつくる機運づくり ・区民会や関係団体、地区の若者を構成主体とする「(仮称)樅地区地域活性化検討部会」を設置。現状について調査するとともに、地区の若者にとって必要な施設の整備を検討 ・プロジェクトの活動として「空き家を活用したにぎわいづくりワークショップ」「先進地視察」「アンケート調査」等を行う</p>			
<p>4. 安心して生活するために</p>	<p>新規</p>	<p>令和3～12年度</p>	<p>①主体：樅区民会、自治会長会 ②支援：白樅地区まちづくりセンター、町</p>
<p>地区民一人ひとりが安心して暮らし続けられる基盤をつくります。 (1) 商業施設の創出や防災対策を充実させ樅全体の安心安全を育む 【いつまでに】 令和3～12年度 【なにをするか】 ①「(仮称)つばきの里安心プロジェクト」の組織化 ②課題発見・解決方法の組み立て ・ホープ館等の販売内容拡充や移動販売の充実など、今ある資源を見直し、高齢者も利用しやすく、かつ、人のつながりが生まれる買物空間を創設する ・遊び場(郡之神公園等)を安全に利用できるよう維持管理をおこない、季節ごとの自然が楽しめるような環境づくりをおこなう ・樅地区内の自主防災組織率100%を達成し、初期消火訓練・反射材・防犯灯といった防犯対策を充実させる。また、中学生の下校時の安全対策のため、安心して待つことができる居場所づくりを目指す ③子育て世帯から高齢者世帯まで、すべての世代に分かりやすく周知する</p>			

5. 椿の美しい景観を守るために	新規	令和3～12年度	①主体：椿区民会、自治会長会 ②支援：白椿地区まちづくりセンター、町
<p>失ったら二度と取り戻せない椿の景観を守り育み、次世代へとつなぎます。</p> <p>(1) 椿の景観を今後も維持していくための活動</p> <p>【いつまでに】 令和7年度まで</p> <p>【なにをするか】</p> <p>①「(仮称)椿の景観を考えるプロジェクト」の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椿地区の「残したい景観」をテーマにした写真コンクールを行い、椿の景観の魅力を再認識する ・「景観保護委員」という役割を設け、年数回会議を開催し、どのように景観を維持していくか(NPOなどの外部機関に委託するなど)を決定する <p>②「椿地区散策案内板」・「椿地区散策ガイド」の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真コンクールの結果を踏まえ、案内板に表示する項目を決定し、NPOや関係機関と連携しながら案内板を作成する ・椿地区の史跡をたどるモデルルートを掲載した散策ガイドを作成する <p>③旧飯豊中学校グラウンドの桜並木および関連施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通路の整備はほぼ完了しているので、管理運営方法を検討し決定する ・花見の時節にライトアップを実施し、椿地区を通過する人たちにも鑑賞してもらう ・桜以外に、斜面を使った植栽も検討する 			

【地区間連携事業】

事業概要	連携地区	当該地区の役割
白椿地区公民館の改修	小白川地区	町への働きかけ
地区の資源を組み合わせた観光ツアーの企画運営	小白川地区	連携の推進
田園散居集落を維持するための環境整備活動	萩生地区、黒沢地区、東部地区、小白川地区	連携の推進

【地区の土地利用の基本的な考え方】

基本的には、現状の土地利用計画図を基に考え、商業施設（買い物空間）を考慮した時、適地はどの辺りか検討する。

椿地区の美しい景観を維持していくために、地区民自身が危険な空き家や耕作放棄地を作らないよう努める。